

Title	環境共生と景観
Author(s)	徳岡, 昌克
Citation	デザイン理論. 2008, 52, p. 134-135
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53363
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

環境共生と景観

徳岡昌克・徳岡昌克建築設計事務所

現代建築の巨匠の一人、ミース・ファン・デル・ローエは1965年頃、建築は文明の尺度だとして建築の乱れを嘆いていた。すでに、その頃から多くの挑戦者が現れてミース風にいえば建築はできるだけ風変わりにも創ろうと試みられてきたとも言える。今世紀に入って、益々、その歯止めが掛からないかに見えるが、建築を文明の尺度だとすると、今その尺度は地球温暖化への対処をもって計られるのではないか、また国内では景観問題がようやく脚光を浴びるようになった。パネル発表では環境共生と題して、私共の取り組みから2例をご紹介します。

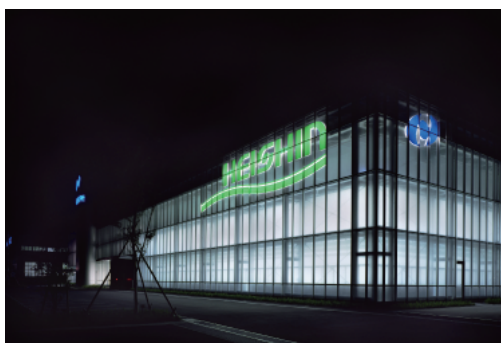
1. 兵神装備株式会社 技術研究所 (竣工2004.10)



南側外観

敷地は、湖北の美しい田園の風景を貫く北陸自動車道に面しています。環境共生を基軸にしながら、企業の先進的なイメージを自動車道利用者にアピールし、かつ道路騒音を遮断するため、外壁にダブルスキン、屋根にトップライトを設置しました。夏期はドラフト効果により熱気を上部から排出、春や秋にはベンチレーションを利用して心地よい微風を取り入れ、冬季はダブルスキンを空気層とした断熱、トップライト部分の熱溜りを床面に送るなど、空調、照明でのエネルギーを削減し、環境にやさしい計画としました。

全体を整然としたモジュールデザインで構成することで周辺の工場群から建物を際立たせ、宣伝効果を高めながらも、ダブルスキンを構成する合わせガラスに和紙の質感にも通じるグラスファイバーパターンを採用することで、ガラスの光沢感を抑えて景観に配慮し、かつ光を柔らかく室内に取り入れて人間性豊かな穏やかな和の雰囲気を感じ出しています。



夜景外観



エントランスロビー



134 ホワイエ



研修室

2. 夜久野町文化・保健福祉複合施設 (竣工 2005. 3)



全景



外壁 テラコッタ

「夜久野町の顔」として地域のコミュニティー拠点となり、周辺の美しい山並み景観に馴染みながら、環境共生にも配慮したものとして計画するにあたり、建物全体を山並みに呼应した大屋根で覆いました。パンプソーラーによる省エネルギー効果を考慮した2重屋根と深い庇に包まれたこの建物の室内空間は外断熱壁とペアガラスを使用した木製断熱サッシにより構成され、空調エネルギーを抑制しています。床下部には、造成時における埋め戻し土量の抑制と将来の配管更新に考慮して全面地下ピットが設けられています。外壁は質感を大切にテラコッタや檜などの自然素材を採用し、周囲の景観に溶け込むよう配慮しました。室内には木や土のぬくもりがふんだんに生かされ、トップライトから降り注ぐ自然光を明るく拡散する木製ルーバーや珪藻土の塗り壁が、居心地の良い室内環境を提供しています。



遠景



近景



図書館内観



町民ラウンジ



文化ホール